

河川愛護モニター活動紹介

7月から平成18年度新モニターのお二人に、毎月の梯川について報告して頂いています。
新しい発見が沢山あったようですので、今回は7月・8月・9月の報告を紹介致します。

梯川を今までと違った見方を
するようになりました

■7月・8月・9月の活動報告

梯川には所々に“釣り人の道”のような小道があり、降りて行くと川を同じ目線で見る事ができます。水際には草の間からは鳥の声が聞こえたり、釣り人とのちょっとした会話など“釣り人の道”は人と川のつながりを深く感じる場所と思います。7月17日は朝のニュースで梯川に災害対策本部が設置されたことを知りました。昨日より断続的に強い雨が降り続いていましたが、川へ向かうと昨日とは打って変わり、濁流が多量のゴミを下流へと押し流していました。流域に降った雨は次々に集まり、一晩で川の様相を変えてしまうのがわかりました。8月にオープンした「梯川手づくり学習館」は、入ってすぐに大きな水槽がいくつもあり、梯川で見られる魚たちが泳いでいます。上流から下流に生息している生物をパネルで紹介したり、パソコンで検索することもできます。上階はとても眺めが良く望遠鏡もあるので、野鳥などの良い観察場所になるでしょう。また地元小学生による研究発表も貼ってあり、分かりやすくとめられていました。「梯川手づくり学習館」は大人も子供も楽しめる施設です。水環境をめぐるいろいろなことの発信地になればと思います。国土交通省の方より河川管理のお話を伺い、今までと違った見方をするようになりました。梯川に出かけてみるだけでいろいろな発見や出会いがあります。また、梯川のほとりに住んでいるのに災害には無関心であったことを反省するとともに、いつも災害が起こらないよう見てくれる人たちがおられるのもうれしいものです。



平成18年度
梯川河川愛護モニター
井上さつきさん

洪水で様々な被害が
出ていました!

■7月・8月・9月の活動報告

7月上旬に夏休み前の安全利用点検に同行しました。安宅の河口左岸ではコンクリート擁壁護岸が異常に川側へ傾斜し、膨れて曲がったところを確認しましたが、移動や変形等を定期的に観測する必要があると思いました。7月17日は未明からの大雨のため、正蓮寺地内～小松出張所間を巡視しました。内水氾濫のため、漆町地内と白江町地内では内水排除用ポンプが、能美地内と九竜橋川排水機場付近では国土交通省の排水ポンプ車が稼働していました。埴田水位観測所付近では測量業者が水位・流速を観測しており、鶴ヶ島地内ではボート1隻が転覆しているのを見ました。また、お茶取水口付近の広場は洪水による冠水で流木が打ち上げられており、フェンスやロープ柵、また用水の一部が破損していました。8月にはフェンスとロープ柵は修理されていましたが、用水の一部はまだ修理されておらず、今後の大雨でまた広場が冠水すると思われるので、早めの対応が望めます。8月6日に「梯川手づくり学習館」がオープンしました。11時から記念式典が開催され、米野学習館準備委員会会長の挨拶、西村小松市長の祝辞、伊藤金沢河川国道事務所長の挨拶があり、引き続き矢原小松教育長を加えた4名によるテープカットが行われました。当日は丸の内地内で第24回小松市民レガッタも開催されました。



平成18年度
梯川河川愛護モニター
西野 広一さん

梯川手づくり学習館がオープン

8月6日に梯川手づくり学習館がオープンしました。学習館は魚・鳥類の観察を通じて生命の多様な生態や修正などを学んでもらう場所です。校外学習や総合学習、梯川について疑問に思うことがあれば、「百問は一見にしかず」ぜひご来館ください。



お問い合わせ先

国土交通省金沢河川国道事務所調査第一課 TEL076-264-8800
小松出張所 TEL0761-23-4000
ホームページ <http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/>
広報「かけはしがわ」は、ホームページでもご覧いただけます。



国土交通省 北陸地方整備局
金沢河川国道事務所

本誌は古紙100%の再生紙を
使用しています



環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています

環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています



かけはしがわ



発行:国土交通省金沢河川国道事務所



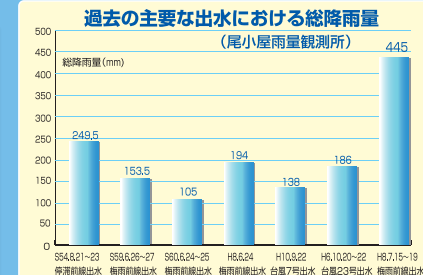
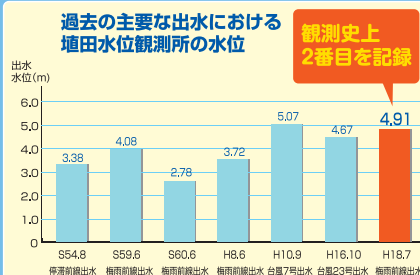
平成18年7月の梯川洪水状況

平成10年9月に次ぐ観測史上
2番目の水位を記録!

7月15日以降梅雨前線は北陸付近に停滞し、南から暖かく湿った空気の影響で活動が活発になり、石川県内では雨が続きしました。この大雨により、尾小屋雨量観測所(小松市尾小屋町)で5日間に渡り累計雨量445mmを記録しました。また、17日8時の埴田水位観測所では、「H10.9出水」に次ぐ観測史上2番目となる4.91mの水位を記録しました。

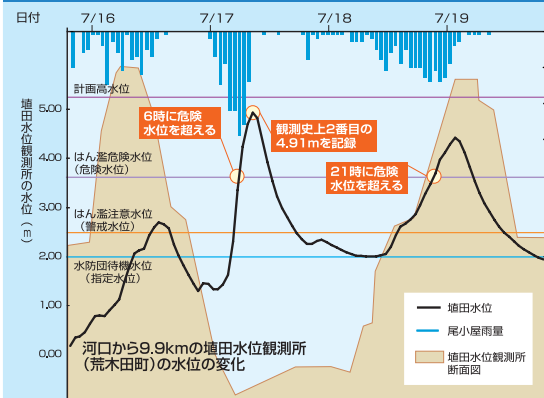


普段の梯川



2度にわたる危険水位突破で小松市内2,726世帯に避難準備情報が発令

7月15日から19日の埴田水位観測所における水位状況

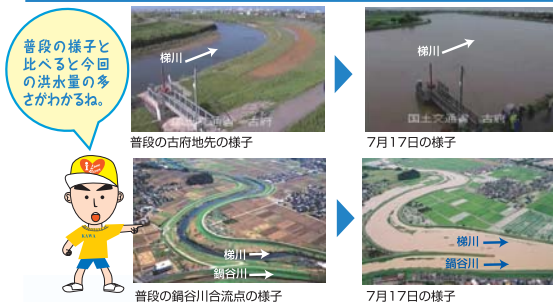


小松市内12町に避難準備発令

荒木町の埴田水位観測所で2度にわたり危険水位を越え、小松市長は、17日5時38分と18日22時14分に、小松市の2,726世帯8,558名に対して避難準備情報を2回発令しました。



出水時の梯川の様子



排水ポンプ車3箇所へ出動!!

国土交通省は、小松市長の出動要請を受けて、能美町地先、丸の内町地先、埴田町地先の3箇所に排水ポンプ車3台を派遣し、排水作業を行いました。



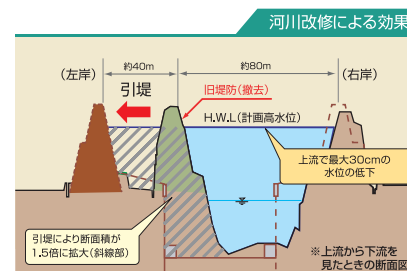
各地で水防活動が実施されました



梯川の直轄河川改修事業の効果

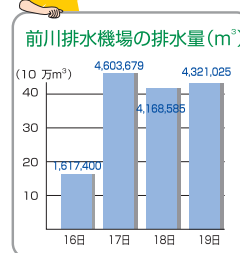
引堤前と比べ30cm水位が低下!!

梯川では、平成17年度までに前川合流点から上流1.5kmの区間の川幅を1.5倍に広げたことにより、川幅を広げた区間から上流では水位が最大30cm低下したと想定されます。

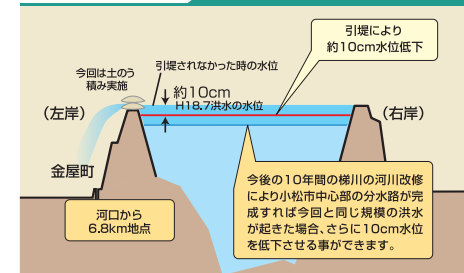


前川排水機場フル稼働!!

前川排水機場では、17日4:00から排水ポンプ4台 (計62m³/s) により、前川・木場潟の排水を行い、前川沿川の浸水を防止しました。



金屋町付近における引堤の効果

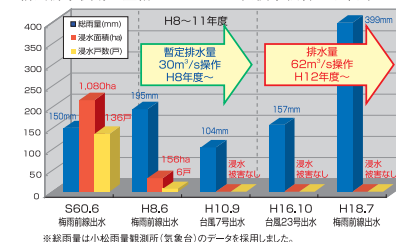


河口から約6.8km上流の金屋町付近では堤防から洪水が溢れる寸前まで水位が上昇し、水防活動が行われましたが、ギリギリのところまで堤防から水が溢れることはありませんでした。もし、前川合流点から約1.5km区間の河川改修が行われていなかったら、金屋町付近では土のう1段分にあたる約10cm水位が高くなり、洪水が堤防をのり越え、氾濫していたおそれがあります。



前川・木場潟周辺の被害軽減効果

前川排水機場が整備されたことにより、浸水被害がなくなりました。



洪水による災害に備え、国・県・市が連携を強化!!



出水時における迅速な対応で被害を最小限に食い止めるために、災害時の情報を国・県・市の防災担当者が共有するための組織がつけられています。H18.10.6には手取川・梯川災害情報連絡協議会が開催され、7月豪雨についての概要、水防活動、出水時の情報の共有化やハザードマップの活用について話し合われました。

梯川洪水ハザードマップを活用しましょう!

小松市が作成した梯川洪水ハザードマップには梯川が氾濫した時の避難場所が記載されています。災害発生時にすぐ行動ができるように事前に避難場所を確認しておきましょう。また、国土交通省ではホームページでも防災情報を掲載しています。ハザードマップと併せて活用しましょう。

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/bousai/index.html>